

第1回 県立高等学校改革懇談会 『修明高校鮫川校』



日時：令和元年 6月 7日（金） 14:00 ~ 15:30

場所：福島県立修明高等学校鮫川校

福島県教育委員会

本日の要点

1

県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

2

鮫川村と周辺町村の中学校卒業見込み者数の推移と鮫川校の現状

3

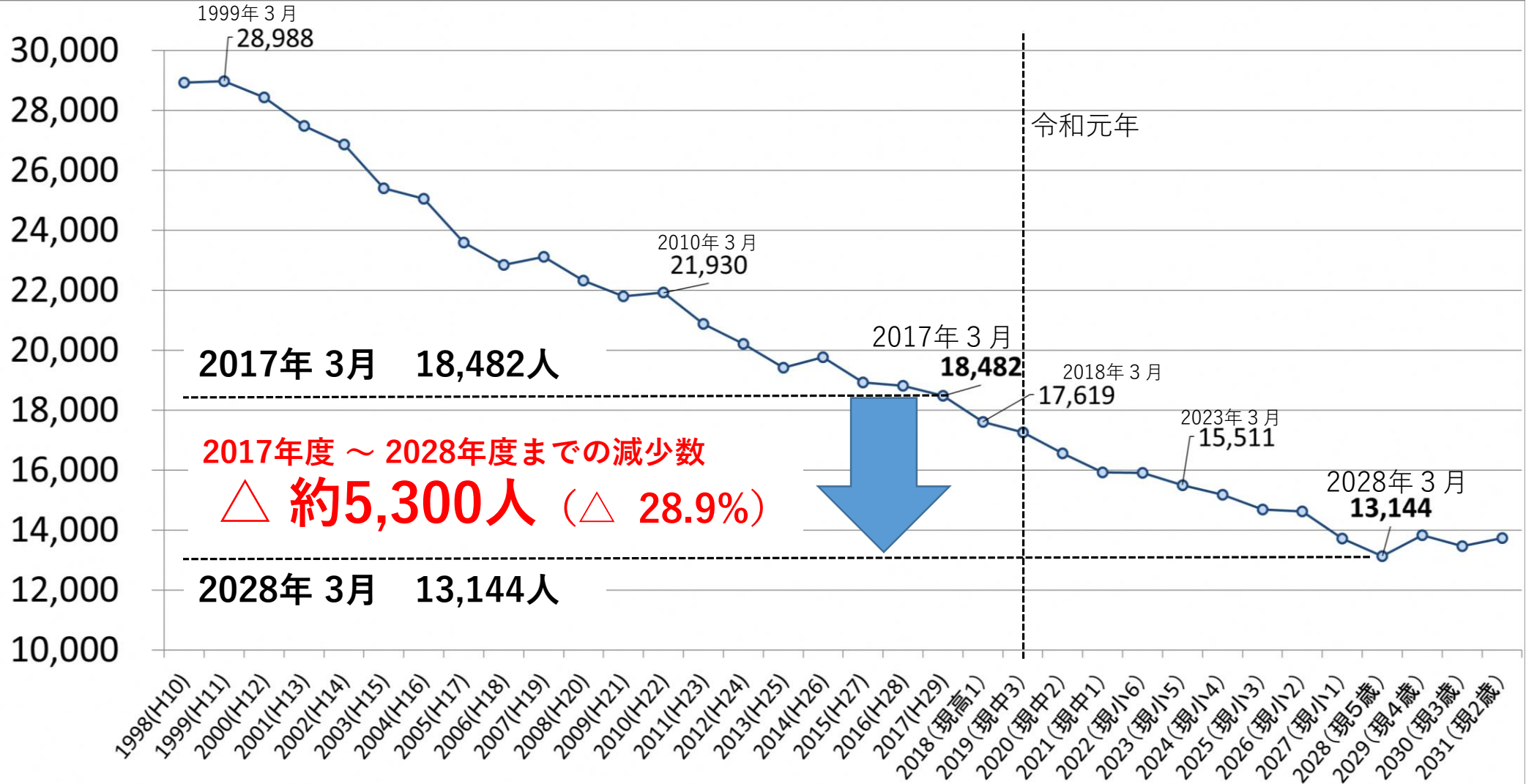
今後の進め方について

1

県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

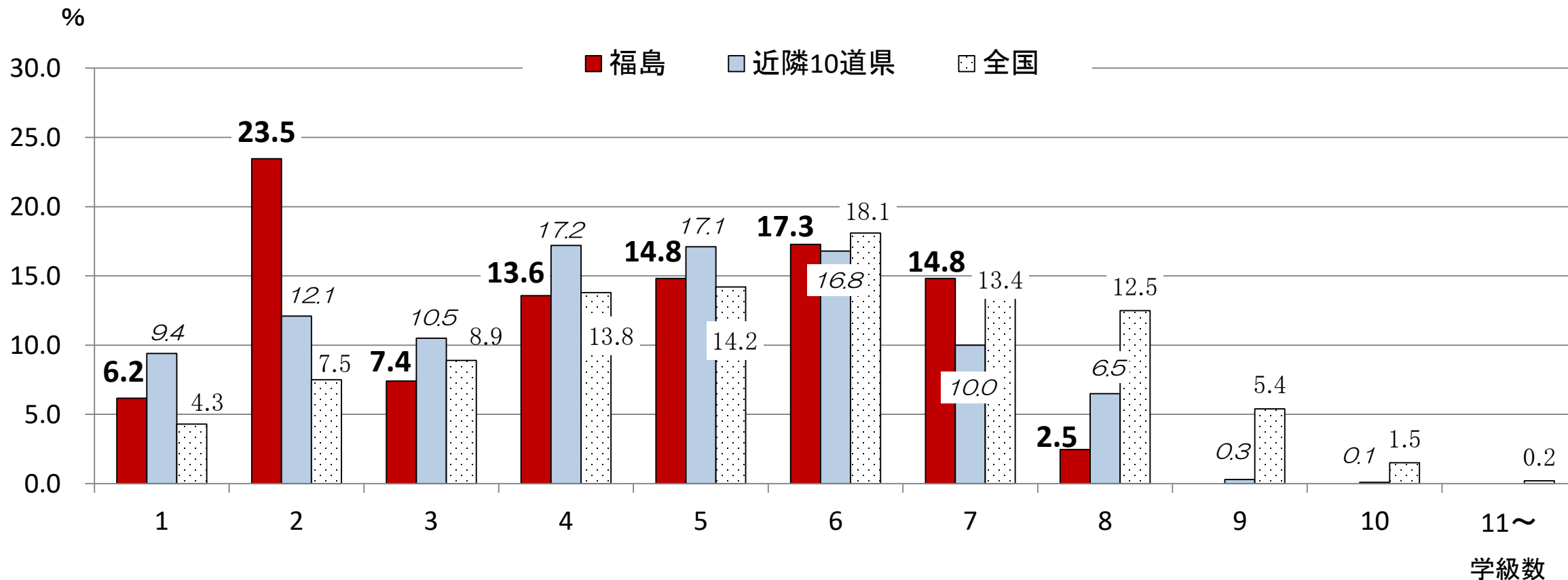


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- **高等学校の小規模化**（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の学習ニーズの多様化（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・再生
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）

高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度 ～ 2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度 ～ 2028年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

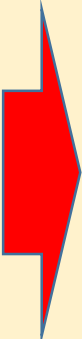
再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年 4 ～ 6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて**統合・募集停止を推進**
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群



進学指導拠点校
進学指導重点校
キャリア指導推進校
職業教育推進校
地域協働推進校
定時制・通信制高校

2

修明高校鮫川校における現在の状況

小規模校のメリット・デメリット

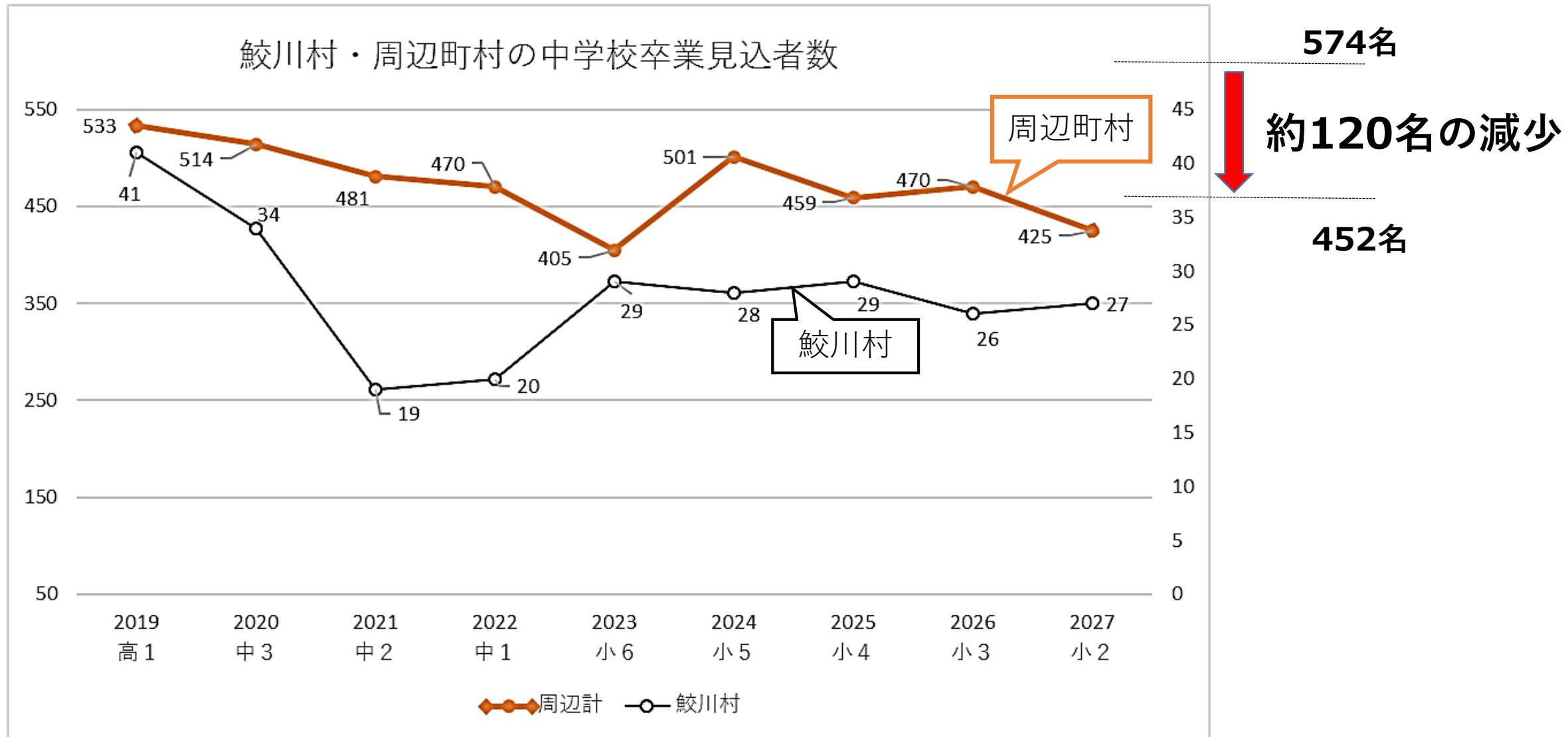
【メリット】

- 学校がある地域の生徒が、少ない負担で通学できる。
- 生徒一人ひとりに目が届くきめ細かな指導が充実している。

【デメリット】

- 生徒どうしが、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



※ 周辺町村は、棚倉町, 埴町, 矢祭町, 石川町, 浅川町, 古殿町

学校の沿革概要等

修明高校鮫川校

○ 沿革（創立71周年）

- 昭和23年 4月 福島県立東白川農業高等学校定時制課程分校として設立
7月 福島県立塙高等学校鮫川分校となる
- 昭和37年 4月 塙高校より東白川農商高校に移管、福島県立東白川農商高等学校鮫川分校に校名変更
- 昭和44年 4月 全日制農業科となる（定員44名）
- 昭和48年 4月 全日制普通科に転科となる
- 昭和58年 3月 新校舎落成移転
- 平成10年11月 創立50周年記念式典
- 平成20年 4月 福島県立東白川農商高等学校鮫川校に校名変更
- 平成21年 4月 福島県立修明高等学校鮫川校に校名変更

○ 設置学科（平成31年度現在）

全日制 普通科 1学年1学級

○ 面積

校地	<u>4,715</u>m²	建物	<u>2,157</u>m²
校庭敷地	<u>3,366</u>m²	校舎	<u>1,272</u>m²
運動場	<u>1,349</u>m²	体育館	<u>753</u>m²

進路状況（過去3年間）

修明高校鮫川校

進路先 卒業年度	進学		就職		その他	合計
	県内	県外	県内	県外		
28	4		13		1	18
29		1	10	1		12
30	4		16		1	21

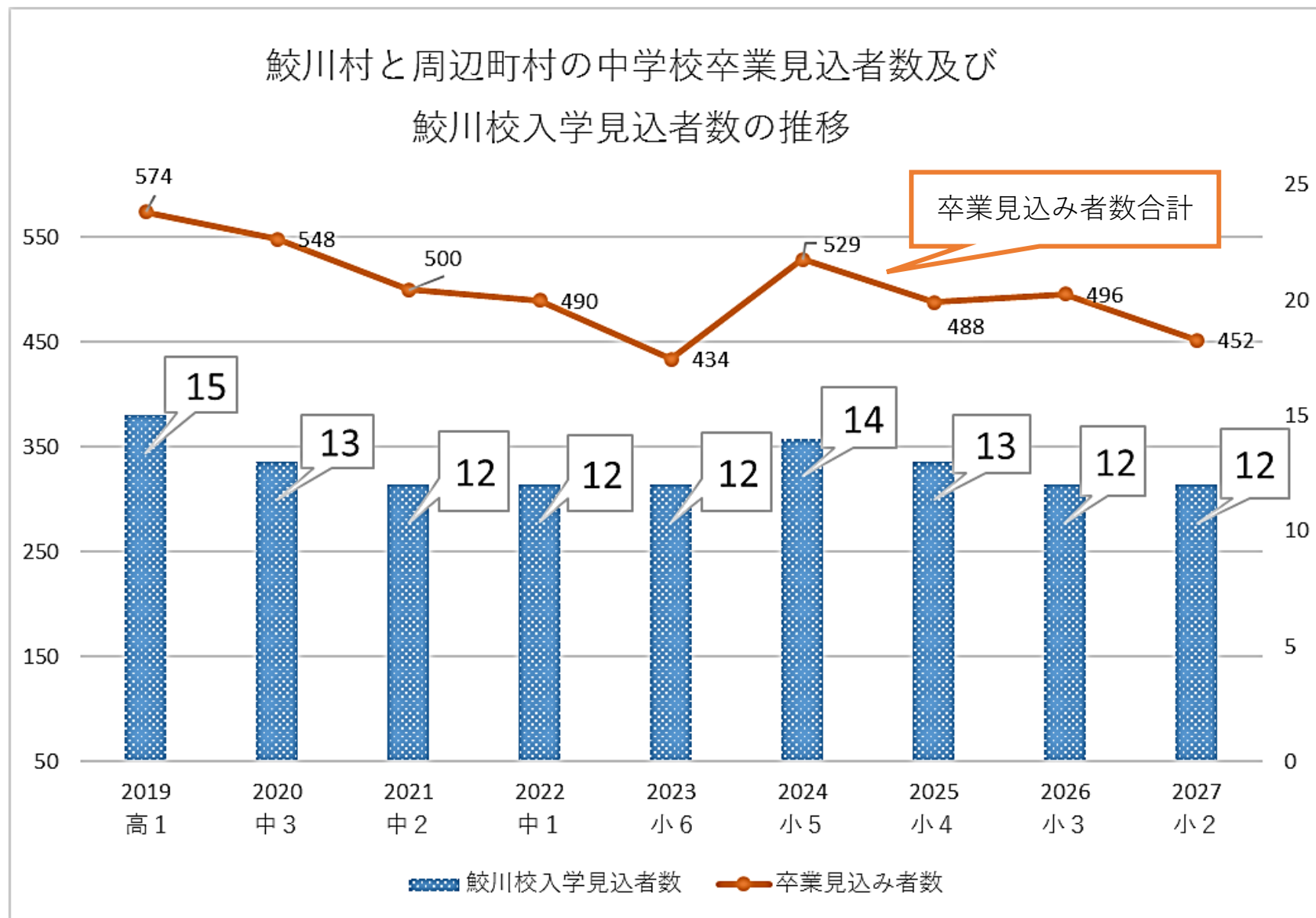
入学者数と募集定員の充足状況の推移(過去10年間)

修明高校鮫川校											
年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	40										
入学者数	34	29	19	18	38	22	12	22	19	25	15
充足率 (%)	85.0	72.5	47.5	45.0	95.0	55.0	30.0	55.0	47.5	62.5	37.5

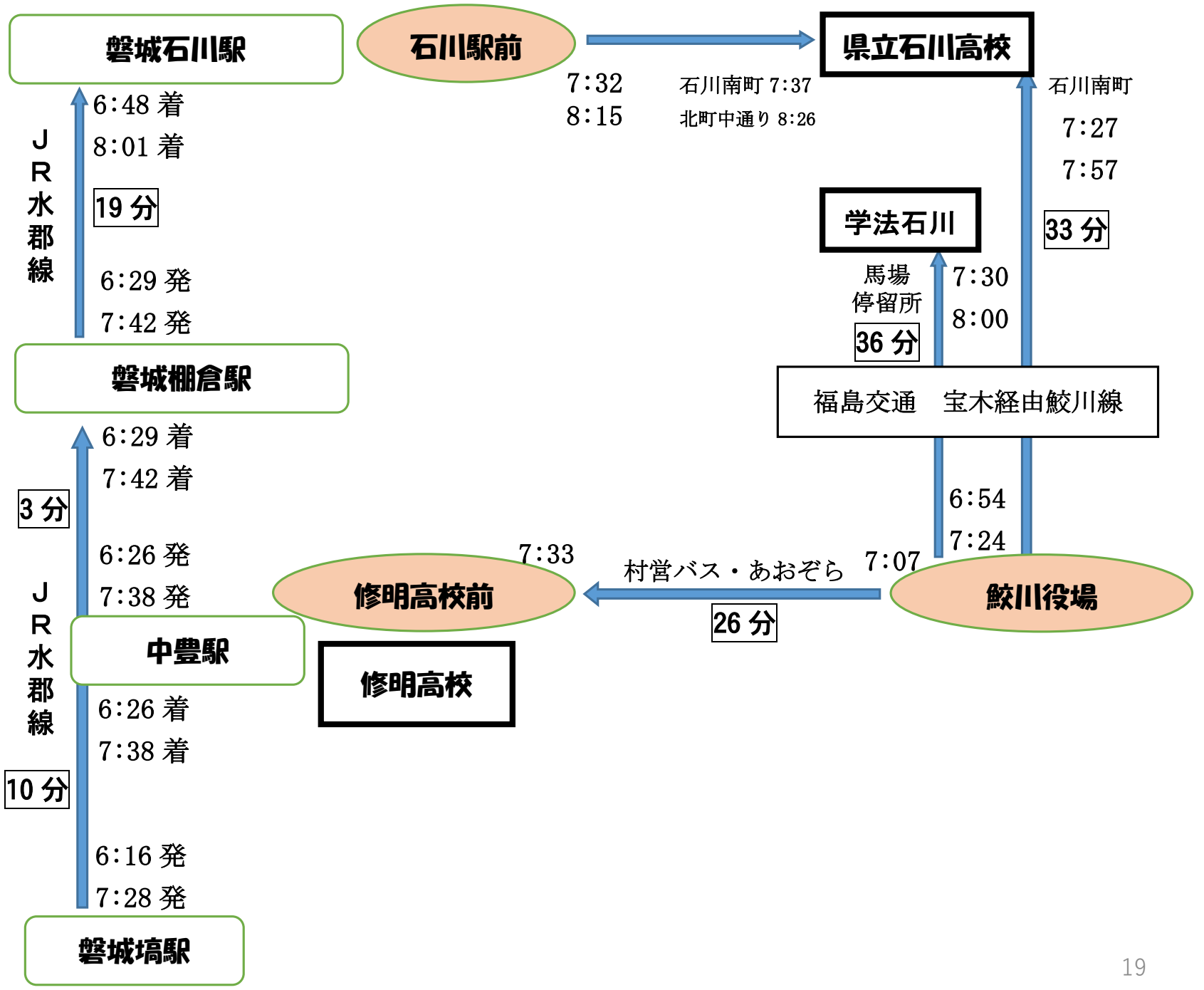
平成30年度 鮫川中及び周辺中学校の進学先

	卒業者数	進学者数	修明鮫川	修明	埴工業	県立石川	安積	安積黎明	須賀川	光南	白河	白河旭	白河実業	その他公立	日大東北	学法石川	その他私立
鮫川	29	28	6	6		3	1	1			1		1	3	2	3	1
棚倉	123	120	7	37	5					10	16	16	10	4	1	9	5
埴	74	70	2	17	18					2	6	8		3		13	1
矢祭	44	41	2	11	3	1				4	5	4			1	7	3
石川	147	139	2	6	1		6	2	2	8	1	2		44	3	47	15
浅川	65	63	0	4	4			3		1	8	3	7	9	1	17	6
古殿	45	41	0	1	2	12		1		5	1			6	1	11	1
計	527	502	19	82	33	16	7	7	2	30	38	33	18	69	9	107	32
進学者に対する割合			3.8%	16.3%	6.6%	3.2%	1.4%	1.4%	0.4%	6.0%	7.6%	6.6%	3.6%	13.7%	1.8%	21.3%	6.4%

鮫川校の入学見込み者数の推移



通学に関して



3

今後の進め方について

今後の改革懇談会の進め方（案）

令和元年度

第1回県立高等学校改革懇談会

- 県、管理職、主任等の検討委員会
- 校内の検討委員会の立ち上げ

第2回県立高等学校改革懇談会

⋮

第2回以降は必要に応じて開催

6月

- ・ 前期実施計画策定の経緯
- ・ 鮫川校の現状
- ・ 今後の進め方（跡地等）

改革懇談会で出された課題を
解決するための組織

7月下旬

- ・ 課題の検討
- ・ ロードマップの提示

8月

- ・ 課題の検討

10月

募集停止公表

2020

3月

募集停止